中村武久先生の逝去を悼む

鈴木邦雄

去る 2011 年 11 月 29 日に、前会長・中村武久先生がご逝去されたという悲しいニュースが届きました。本学会誌が印刷直前になっていましたが、特にお願いして、追悼文を掲載させていただきました。本追悼文は、12 月 3 日に行われた告別式にて、不肖の弟子・鈴木邦雄が読み上げた「弔辞」です。

弔　辞

中村武久先生あまりにも突然の訃報に接しまして、私をはじめ国内外の多くのマングローブ研究者・植物学関係者は深い悲しみに包まれております。ひと月前の１１月５日に東京農業大学でマングローブ学会総会が開催された際には、体力的に厳しいにもかかわらず、無理をして、きっと無理されて役員会に出席いただきました。「鈴木さん」というお言葉もかけていただき、マングローブ研究への変わらぬ情熱を語られておりました。

それから間もない１１月２９日に、あまりにも思いがけない訃報が届き、ただただ驚き、悲しみの念に打ちひしがれ、残念な思いで一杯です。突然の出来事にご遺族・ご親族のご心中はいかばかりかと、お察しするに余りあるものがあり、お慰めする言葉もございません。多くのマングローブそして植物学研究者を代表し、ここに謹んで中村先生にお別れを申し上げます。

私から改めて申すまでもなく、1980 年頃から故杉二郎先生とそれを支える中村先生らが中心となり、タイと日本のマングローブ共同研究プロジェクトを始められ、その後、日本マングローブ協会と日本マングローブ学会を立ち上げなさいました。日本マングローブ学会の二代目の会長として中村先生が、日本の多くの研究者をまとめて、マングローブ研究の普及啓もうと発展にご尽力いただきました。中村先生は、長い間シダ植物、ミクロネシア・アジアの植物の研究をされており、その延長上にマングローブ研究があるとも話されていました。

『バナナ学入門』、『マングローブ入門』、『ポナペ－その自然と植物』などの著書からもわかるように学問の幅が広く、最近まで足場の悪い湿地のフィールド調査を続けられていました。これまで数えきれないほど頻繁にタイを訪ねておられ、タイには多くのお弟子さんがおります。中村先生もこよなくタイの皆さんを愛されていました。そして、故サンガ先生、サニット先生をはじめとする世界中のマングローブ関係者からは、温情あふれるお姿で接することで、強い人間的信頼を得ておりました。

個人的なことですが、３０年前から何度も熱帯の調査研究にお声をかけていただき、数多く海外調査にご一緒させていただきました。中村先生と二人だけでミクロネシアからオセアニアにかけて６か国を１４日かけて調査したり、フィジーでは遭難をしたり、時には豪快な釣りをさせていただきました。熱帯の植物名を知らなかった私は、そのたびごとに個人指導をいただいた幸せ者でした。中村先生もお酒は強くな

かったですが、ステーキが特に好きで、私もご一緒するたびにお相伴にあずかった次第です。これからは、博学の中村先生から温かい個人指導を受けられなくなり、今は心が沈んでおります。

日本が中心となり、日本がスポンサーとなり、マングローブの調査研究そしてマングローブの再生へ、熱心に取り組んでおられ、多くのお弟子さんを養成された中村武久先生の足跡には、多くの学ぶべきものが含まれております。

中村先生、先生の大きなご功績に心より敬意を、温情に感謝を表すとともに、残された私どもは、深く哀悼の意をささげ、中村先生のご遺志に答えてマングローブ研究・植物学研究の一層の発展に尽くすことをお約束申し上げます。

悲しみに措辞ととのわず、意を尽くせませんが、お別れを申し上げなければなりません。中村先生、本当にありがとうございました。天上から、ご遺族の皆様の将来とともに、先生が育てられたマングローブ研究・熱帯植物研究の発展を温かく見守っていただきたいと存じます。ご指導ありがとうございました。どうか、安らかにお眠りください。